

中田かわら版 5月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田地区経営委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所

制作：中田かわら版制作編集委員会

横浜市踊場地域ケアプラザ

■ 富士見丘自治会

「防火・防犯パトロール」 活動紹介



富士見丘自治会は、平成 31 年 1 月に会員参加の防火活動協力により、平成 2 年からの 28 年間にも及ぶ長期継続した防火・防犯パトロールに対して泉消防署長からこのたび荣誉ある感謝状を頂きました。

この活動は平成 2 年からで、一度も休むことなく 28 年間継続されて来ました。平成 2 年当時は今ある様なパトロールの服装もそろっておらず拍子木のみのパトロールでした。

富士見丘自治会の住民の大半は他所からの移住者であり、新興地域として発展し、夜になると、街灯も少なく寂しい住宅地

でした。また、同じ自治会の中でも地区によって地域環境に差がありました。

特に未舗装の道路や、公道移管に関連し下水道の未整備問題等を多く抱えており、移り住んだ住民がいかに暮らしやすく、安全・安心の街にするかが、大きな課題でもありました。

雑木林が点在し、自治会の一部地域は丘を造成しての宅地開発で、パトロール当初は今では想像できない苦勞がありました。

現在は防火・防犯の意識も高く、どこの町でもパトロール等の防火・防犯活動は活発に行われています。平成 2 年当時の新興住宅地域では挨拶できる絆や共助の精神がいかに大切であるかが問われており、それをパトロールという形で 28 年前に取り入れた先人の素晴らしい知恵でした。更に開発当初の先人の苦勞を引き継いで子どもたちも含めた家族ぐるみの活動に発展させていきました。年を追うごとに重要性と大切さが住民に認知されてきました。

始めた当初は「空き巣に用心・火の用心」の声も小さく遠慮がちでしたが、今では皆さんにしっかり届く大きな声でパトロールが出来るようになりました。拍子木の音も快く響き渡り、パトロールを盛り上げる効果の一役を担っています。

町内をくまなくパトロールすることにより自分たちの町内の様子を知る良い体験になり、防犯灯などの不具合な箇所も同時にチェック出来るのです。

今は、道路事情も良くなり、自治会の主要箇所を約 20～30 分くらいで回ることが可能になりましたが、始めた時は未舗装で防犯灯の数も少なく薄暗い環境でのパトロールでした。終了後は、参加者全員で今後も「安全・安心な地域になるには」と、感想や意見を述べ合いながら、「ご苦勞さん」で解散します。

月一回のパトロール活動ですが、その他には、会員の皆さんと心をつにした月 1 回の防火・防犯活動を実施、秋には防災訓練にも取り組んでおります。

(佐々木 弘美)

協力：廣木氏・塙氏



～一人ひとりが CO₂ を減らす努力をし、美しい地球を子どもたちに残そう！～

6月のイベント

このチラシの情報をより詳しく知りたい方は、踊場地域ケ
アプラザ 葛西（かさい）まで問い合わせください。

TEL 801-2114 FAX 801-2923

■中田の歴史記念物＜4＞

馬頭観世音（双葉・夏刈場・山神前）



泉区内には俗にいう馬頭観音塔と呼ばれるものは40基あるといわれている。石碑に刻字されている名称もいろいろで馬頭観音、馬頭観世音、馬頭観世音菩薩、馬頭世観音大悲菩薩など。そのうち中田は約10基が存在する。葛野小学校周辺に限って言えば夏刈場、双葉、山神前の地域に見られる。夏刈場（馬頭観世音、縦36cm×横22cm×厚さ18cm）天保12年（1841年12月、建立主・小山氏。双葉（馬頭観世音菩薩、68×40×7）昭和2年11月吉日。双葉自治会館裏に11基が安置されているがこれが一番大きく、小さなものは26×13。会館（平成5年建立）が建つ前は高さ3メートルほどの広い動物の墓地だった。その上にたくさんの観音像が乱立していた。昭和50年ごろの調査では中田寺が管理していた。

11基の中で珍しいのが馬頭観世音塔の横にピアスター一号（56×28×7）と書かれたものがある。昭和6年6月6日建立。考えられるのは競走馬か軍に徴用された愛馬の名前かもしれない。こうした例が和泉に「出征軍馬ハクチ号」、下飯田に「愛馬南部霊塔」が見られる。葛の湯の隣側にある馬頭観世音は高さ122、幅73、厚さ14cmの立派なもの。昭和40年11月吉日、森 今吉建立とある。

ところで「馬頭観音」とは何か。横浜中区・根岸に「馬の博物館」に行ってみると分かったこと。昔は労働力の主役で馬なしでは生活が成り立た

ない農家が、亡くなった後の供養目的で個人が建てたものが多かった。やがて馬持講中や村中の団体が安全祈願を主に建立。この方は費用も高くかけ立派な像塔が多い。路傍にたたずむ石の馬頭観音が爆発的に増えたのは江戸時代。1700年代の半ば過ぎで、以後は明治、大正、昭和と東日本を中心に広まっていく。最初のころは浮き彫り像が多く、次第に文字で尊名を彫りつけただけのものになっていった。＜参考資料＞「郷土いずみ」（泉区歴史の会）

「馬乗り馬頭観音」（馬事文化財団）

（宮田貞夫）



(上)長野県坂北村の馬頭観音

(中)双葉の馬頭観音群

(右)は立派な馬頭観世音塔



「中田百合地域情報サイト」にて地域の最新の情報や、かわら版バックナンバーなどを調べることができます。www.odoriba-cp.jpへアクセス！！